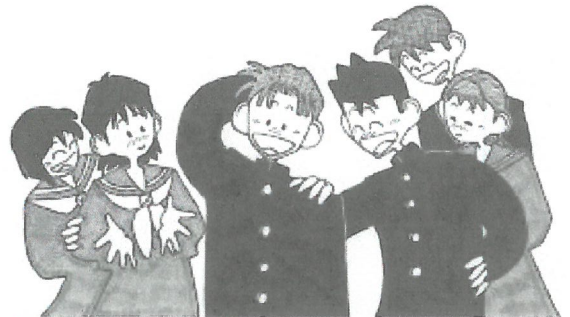


友をもとうとするな 友と共にあれ

「1年生になったら 1年生になったら 友達100人できるかな」という歌を入学時期になるとよく聞くものでした。

小学校入学から8年が経とうとしている皆さんですが、今までに何人の友達ができましたか？そして、その中から「しん友」と呼べる人はできましたか？

中学生の時期、友達の存在はとても大きいものです。大きいが故に、友達に依存し過ぎて常に近くに友達がいないと不安な人、友達を自分の所有物として自分の都合のいいように扱う人、不安を抱えている人もいます。



中学生の時期、友達の存在はとても大きいものです。大きいが故に、友達に依存し過ぎて常に近くに友達がいないと不安な人、友達を自分の所有物として自分の都合のいいように扱う人、不安を抱えている人もいます。

友達にどのように思われているか常に

友達とはどういった存在で、どう付き合っていけばいいのでしょうか？

友達を求めるのであれば、求められる努力が必要です。何もせずに、向こうから寄ってくることはありません。自分が友達に求めることを、自分が友達にしていかなければいけないと思います。

私が初めて買ったCDが中村あゆみさんの「ともだち」でした。その歌詞の中に「MAMAやPAPAたちに打ち明けられない秘密や悩みを言えるようなパートナー、プライド気にしてひとりであるより傷つけ合っても大切なパートナー、HOP STEP JUMP つかまえるのさ本当のともだち」とあります。この歌詞にあるように、本当の友達「一生付き合っていける友」をつかってほしいと思います。

友人を求める前に自分自身を愛する

できるだけ多くの友人を欲しがり、知り合っただけで友人と認め、いつも誰か仲間と一緒にいないと落ち着かないのは、自分が危険な状態になっているという証拠だ。

本当の自分を探すために、誰かを求める。自分をもっと相手に知ってほしいから、友人を求める。漠然とした安心を求めて誰かに頼る。なぜ、そうなるのか。孤独だからだ。なぜ、孤独なのか。自分自身を愛することがうまくいっていないからだ。しかし、そういうインスタントな友人をいくら広くもったとしても、孤独の傷は癒されず、自分を愛するようにはなれない。ごまかしにすぎないからだ。

自分を本当に愛するためには、まず自分の力だけを使って何かに取り組みなければならない。自分の足で高みをめざして歩かなければならない。そこには苦痛がある。しかしそれは、心の筋肉を鍛える苦痛なのだ。 著書「超訳 ニーチェの言葉」より

生きてるだけで丸もうけ

上の言葉は、明石家さんまさんが言った言葉です。この言葉は、謙虚な言葉であり、感謝のこもった言葉であると教育評論家尾木ママが絶賛していました。

さんまさんの娘であるIMALUさんの名前は、「生きてるだけで丸もうけ」の「生(い)」「丸(まる)」をとって「いまる」とつけたそうです。

「大変だ」と思うことは日々多いですが、その大変さを感じられるのも生きているからこそ。

生きていることに感謝して、一日一日をお互い過ごしていきたいものです。

明石家さんまさんなら、大変なときこそ「笑(わろ)とけ」とアドバイスする気がします。

